国立国語研究所学術情報リポジトリ

複合格助詞における丁寧形の機能：『日本語話し言葉コーパス』を用いた分析

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2018-03-20
	キーワード (Ja):
	キーワード (En): Corpus of Spontaneous Japanese (CSJ)
	作成者: 本多, 由美子, HONDA, Yumiko
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001527

複合格助詞における丁寧形の機能
－『日本語話し言葉コーパス』を用いた分析－

本多　由美子（一橋大学大学院言語社会研究科）†

Functions of the Politeness Form in Compound Case Particles: Analysis Based on the Corpus of Spontaneous Japanese

Yumiko Honda (Hitotsubashi University Graduate School of Language and Society)

要旨

本稿では「～につきまして」や「～に関しまして」などの複合格助詞における丁寧形の機能について考察する。複合格助詞の丁寧形は講演など改まった場面での話し言葉に現れる表現であるが，一般的には丁寧さが加わった表現とされ，使用傾向についての分析はあまり行われていないようである。

本稿では『日本語話し言葉コーパス』の講演のデータを用い，複合格助詞 21 形式について丁寧形と普通形の比較を通して分析を行った。その結果，複合格助詞の丁寧形は表現によって用いられる程度が異なり，また丁寧形が用いられる場合，「～につきましては」のように助詞の「は」や「も」がついた形式が普通形よりも多く用いられること，さらに普通形よりも丁寧形の方がより遠くに係る傾向があることが明らかになった。これらの結果から，複合格助詞の丁寧形は，丁寧さを加えるのみならず，普通形と比べてより広い機能を有することが示唆される。

１．はじめに

１．１　研究上の問い

複合格助詞は複合辞[1]の中で格助詞相当とされる表現である。本稿では，(1)，(2)のような複合格助詞の丁寧形に注目する。

(1) 先月，ニューヨークにおきまして国連総会が開かれました。

(2) 調査結果によりますと通信販売を利用する人は地方在住者が多いということです。

(1)，(2)はそれぞれ，「において」と「によると」という動詞を由来とする複合格助詞において，動詞の部分「オク（置ク・於ク）」，「ヨル（拠ル）」が丁寧形になった文である。これらの複合格助詞の丁寧形は，講演など改まった場面での話し言葉において用いられることがある。三尾（1958:236-237）が述べるように，複合格助詞の丁寧形は丁寧さが加わることによって，文の内部の用言の形に丁寧体が用いられたものと捉えることができる。また，国立国語研究所（2002）においては複合辞の各形式について，丁寧体をとれるか否かについての記述があり，文体の違いとして示されている。

このように，一般的に普通形と丁寧形の違いは，丁寧さの差と考えられ，使用場面の違いで説明される。しかし，同じような改まった場面で丁寧形と普通形が用いられる場合，それぞれの使用傾向に違いはないのだろうか。複合格助詞における丁寧形の機能は，まず丁寧さを加えることであると思われるが，発話におけるそれ以外の機能についての分析はあまりなされていないようである。そこで，本研究では，複合格助詞の丁寧形が，改まった場面の

† nihonda@hotmail.com

[1] 本稿では，「複合辞」は「いくつかの語が一まとまりになって，その一まとまりが固有の『付属語』（辞）的な意味を担うものとして用いられる形式」（国立国語研究所（2002:1））とする。

話し言葉では実際にどのように用いられているか，その使用傾向を普通形との比較を通して分析することによって，複合格助詞の丁寧形の機能を検討したい。

１．２　先行研究

複合格助詞の丁寧形に注目した研究に服部（2013）がある。服部（2013）は，『国会会議録[2]』と『日本語話し言葉コーパス』のデータを用いて普通形と丁寧形の形式の対応関係をレジスターの違いや通時的な観点から比較し，連用形式や連体形式など，複合格助詞の丁寧形の取り得る形式の多様さについて概観している。また，菅谷他（2017）ではコーパス等[3]における複合格助詞の丁寧形の頻度が示されており，ゼミでの発話などセミフォーマルな場面において丁寧形[4]が用いられていることがわかる。

１．３　研究課題

本研究では，改まった場面の発話に用いられる複合格助詞の丁寧形と普通形の使用傾向の比較を行い，両者の傾向の違いから丁寧形の機能の一端を明らかにする。これ以降，複合格助詞の丁寧形と普通形は，それぞれ単に「丁寧形」，「普通形」と呼ぶ。

２．　調査方法

２．１　調査資料

『日本語話し言葉コーパス』（Corpus of Spontaneous Japanese，以下，CSJ と略す）の中の「学会講演（以下，『学会』とする）」と「模擬講演（以下，『模擬』とする）」の 2 つの音声タイプ（コア・非コア）を用いた。CSJ の講演は収録講演数が約 2,700，延べ話者数約 1,400 名，約 700 万語（短単位）のコーパスである[5]。

２．２　調査対象とする複合格助詞

庵他（2001：53）には，複合格助詞について普通形と対応する丁寧形が掲載されている。この一覧表で普通形と丁寧形の両方が記載されている 21 形式 42 表現について，それぞれ丁寧形と普通形を調査対象とした[6]。調査対象とする表現は以下の通りである。

とあって／とありまして	として／としまして	において／におきまして
にかけて／にかけまして	にしたがって／にしたがいまして	について／につきまして
につれて／につれまして	にとって／にとりまして	によって／によりまして
によると／によりますと	にわたって／にわたりまして	に沿って／に沿いまして
に応じて／に応じまして	に関して／に関しまして	に即して／に即しまして
に対して／に対しまして	に基づいて／に基づきまして	を通じて／を通じまして
をぬきにして／をぬきにしまして	をめぐって／をめぐりまして	をもって／をもちまして

[2] 服部（2013）では，「国会図書館のウェブサイトで公開されている完全なデータをダウンロードしたもの（2006 年までの分）」を使用している。

[3] 菅谷他（2017）では，ゼミでの発話をもとにした『理工学系話し言葉コーパス』，『名大会話コーパス』，日本語学習者向けの日本語中級教科書における複合辞の用例を抽出し形式ごとに分析をしている。

[4] 菅谷他（2017）では「丁寧な形」と述べている。

[5] 国立国語研究所（2006）による。

[6] 「を通じて」は庵他（2001：53）では「手段」と「空間的・時間的範囲」があり 2 形式であるが，本研究では 1 形式として調査を行った。

２．３　調査方法

コーパス検索アプリケーション「中納言」の短単位検索を用い，語彙素を条件に普通形，丁寧形それぞれについて用例を抽出[7]した。抽出結果について，書字形が異なるものを中心に，以下の用例は調査対象外とした。

①補助動詞などが後接するもの。

例）「ている」「ておる」「ておく」「てしまう」「ていく」「てくる」等の普通形と丁寧形。

②「によると」については，「と思う」「と言う」など引用の「と」が後接するもの。

③「として/としまして」については，①に加え，動詞，形容詞，形状詞，副詞，助動詞が前接するもの。「～を【名詞】（中心，対象，目的など）として」，「～を【記号】（x，y など）として」の形を取る用例[8]。

④　調査対象とする複合格助詞が，講演の話題の中で扱われていることがある。(3)は「によると」で抽出された用例であるが，このような用例については調査の対象外とした。

(3)　（前略）情報源は何々の話ではとか何々によるとなどの形で表わされることになってそうだなどん伝聞表現と共通の行動を持つようになります（後略）

（A02M0235_45560 □は筆者による）[9]

３．結果

３．１　丁寧形と普通形の出現状況

調査対象とした複合格助詞が出現した講演は 2,579 で，うち丁寧形のみの講演は 4，普通形のみの講演は 1,785，丁寧形と普通形の両方が出現した講演は 790 であった。

３．２　同一形式における丁寧形と普通形の頻度と割合

図 1 に丁寧形と普通形を合わせた合計の頻度が 50 以上の複合格助詞について，丁寧形と普通形の頻度と割合を示す[10]。図 1 を見ると，丁寧形の割合が高い形式に「によると」がある。丁寧形「によりますと」は 117（52.7%），普通形「によると」は 105（47.3%）であり，丁寧形の方が割合が高いのが特徴的である。その他の形式について，割合は 0～20%の範囲で形式によって異なる。「について」や「によって」は，全体の頻度は高いが，その中で丁寧形「につきまして」「によりまして」の割合は低い。図 1 からは頻度と丁寧形の割合についての関係を読み取ることはできなかった。

なお，図 1 の一番下に参考として，丁寧形が用いられる割合の参考にするために，「言って」の結果を載せた。「言う」は，CSJ の講演において，動詞（短単位）の中で最も頻度が高い語である。複合格助詞と同じ方法で節の途中に用いられる「言って」について，丁寧形と普通形の頻度を調べた。「言いまして」の割合は 9.4%であった。

---

[7] 例えば，「に関しまして」の短単位検索条件式は次の通り。「キー: 語彙素="に"　AND 後方共起: 語彙素="関する" ON 1 WORDS FROM キー AND 後方共起: 語彙素="ます" ON 2 WORDS FROM キー AND 後方共起: 語彙素="て" ON 3 WORDS FROM キー」

[8] 直前の 1 語が【名詞】または【記号】かつ，2 語目が「を」の用例を除外した。

[9] CSJ の用例を示す際，「_」の前は講演 ID，「_」の後は，開始位置を示す。この開始位置は複合格助詞の 1 語目の助詞の位置（上記例では「に」）である。

[10] 21 形式の丁寧形，普通形の頻度と割合については，資料 1 参照。

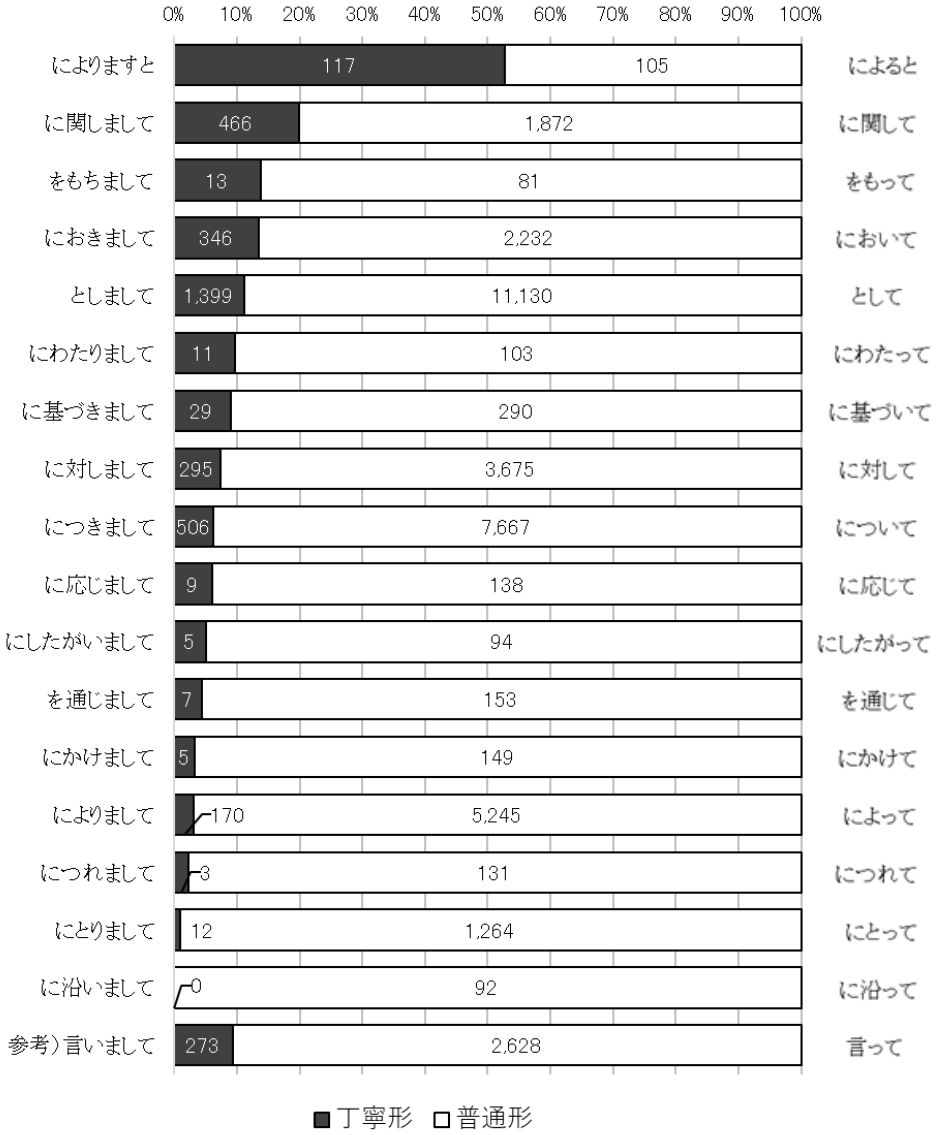

図 1　合計の頻度が 50 以上の複合格助詞における丁寧形と普通形の割合

３．３　後ろに続く 1 語（短単位）の品詞

３．３．１　抽出方法

丁寧形に続く語から特徴を見るために，後ろに続く 1 語（短単位）を抽出した[11]。抽出の際には，話の内容に直接関わる語を見るため言いよどみと感動詞は除外した。

３．３．２　結果

丁寧形の頻度が高い順に並べたものを表 1 に示す。表 1 で丁寧形と普通形の違いで特に注目したい品詞は「助詞」と「動詞」である。「助詞」は丁寧形では 52.75％と半数以上を占めるが，普通形では 29.22％と 20 ポイント以上の差がある。また，「動詞」は丁寧形においては，1.00％で割合が低いが，普通形では，12.22％用いられており，10 ポイント以上の差

[11]「中納言」のインラインタグを用いて，後ろに続く文脈の品詞情報を取得し利用した。

がある。そこで，次節以降はこの 2 つの品詞の差に注目し分析を進めることにする。

表 1　複合格助詞の後ろに続く 1 語（短単位）の品詞

	丁寧形		普通形	
	頻度	%	頻度	%
助詞	1,792	52.75%	10,067	29.22%
名詞	1,050	30.91%	13,094	38.00%
連体詞	131	3.86%	1,070	3.11%
代名詞	110	3.24%	983	2.85%
副詞	101	2.97%	1,808	5.25%
接頭辞	66	1.94%	794	2.30%
形状詞	38	1.12%	787	2.28%
動詞	34	1.00%	4,209	12.22%
その他	75	2.21%	1,645	4.77%
計	3,397	100.00%	34,457	100.00%

３．３．３　複合格助詞における丁寧形の形態的特徴

表 1 の結果から，丁寧形は普通形よりも，後に助詞が続き「～まして＋助詞」という形で用いられる割合が高いことがわかる。そこで，後に続く助詞までを複合格助詞の形と考え，丁寧形（表 2）と普通形（表 3）についてまとめた。ここでは，丁寧形と普通形を合わせた合計の頻度が 1,500 以上の 6 形式（資料 1 参照）について見ることにする。表の「～て」は，助詞が付かない形を表す。

表 2　複合格助詞の「丁寧形」の形態（単位：頻度）

	～て		～ては		～ても		その他助詞		計	
としまして	628	44.9%	752	53.8%	12	0.9%	7	0.5%	1,399	100.0%
につきまして	113	22.3%	343	67.8%	46	9.1%	4	0.8%	506	100.0%
に関しまして	98	21.0%	323	69.3%	42	9.0%	3	0.6%	466	100.0%
におきまして	126	36.4%	184	53.2%	34	9.8%	2	0.6%	346	100.0%
に対しまして	270	91.5%	22	7.5%	3	1.0%	0	0.0%	295	100.0%
によりまして	170	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	170	100.0%
6形式計	1,405	44.2%	1,624	51.0%	137	4.3%	16	0.5%	3,182	100.0%

表 3　複合格助詞の「普通形」の形態（単位：頻度）

	～て		～ては		～ての		～ても		その他助詞		計	
として	7,467	67.1%	2,657	23.9%	768	6.9%	169	1.5%	69	0.6%	11,130	100.0%
について	5,224	68.1%	1,375	17.9%	550	7.2%	413	5.4%	105	1.4%	7,667	100.0%
に関して	646	34.5%	1,017	54.3%	63	3.4%	120	6.4%	26	1.4%	1,872	100.0%
において	1,308	58.6%	563	25.2%	26	1.2%	303	13.6%	32	1.4%	2,232	100.0%
に対して	2,987	81.3%	341	9.3%	125	3.4%	188	5.1%	34	0.9%	3,675	100.0%
によって	4,884	93.1%	256	4.9%	15	0.3%	65	1.2%	25	0.5%	5,245	100.0%
6形式計	22,516	70.8%	6,209	19.5%	1,547	4.9%	1,258	4.0%	291	0.9%	31,821	100.0%

丁寧形（表 2）を見ると，頻度が高い上位 4 表現の丁寧形では助詞が付いた形の方が割合が高い。助詞の中では「は」が付く割合が最も高く，次に「も」の割合が高い。例えば，丁寧形「につきまして」が用いられる場合は，助詞が付かない形（「につきまして」（22.3%））よりも，助詞が付いた形（「につきましては」（67.8%）や「につきましても」（9.1%））の割合が高い。一方，普通形（表 3）を見ると，連体修飾の「~ての」があることが丁寧形にはない特徴であるが，いずれの形式においても 10%未満であり全体から見ると割合はそれほど高くない。「に関して」のみ「に関しては」（54.3%）の方が割合が高いが，それ以外の形式は「～て」の割合が 50%以上である。

これらのことから，一定以上の頻度の複合格助詞において丁寧形を普通形と比較すると，丁寧形は後ろに助詞が付いた形，中でも「は」が付いた形で用いられる傾向が強いことがわかる。

４．複合格助詞の係り先の分析

表 1 では，複合格助詞の後ろに続く 1 語が「動詞」の割合について，丁寧形は普通形よりも割合が低いことを示している。複合格助詞の後ろに動詞が続く割合が低いということは，例えば普通形では，「この二つの違いについて調べました」と直後に述語が入る一方で，丁寧形を用いた場合には「この二つの違いにつきまして調べました」のように，直後に述語が入りにくいことを示しているのではないかと思われる。このことは丁寧形は普通形よりも遠くに係ることを示唆する。しかし，係り先が動詞以外の品詞である場合もあるため，動詞の結果のみで判断するのは難しい。そこで，以下の 4 グループについて係り先の位置の比較を行った。（　）内はグループ名であり，以下グループ名を用いる。

①普通形の「～て」（FU0）
②丁寧形の「～て」（TE0）
③普通形の「～ては」と「～ても」（FU1）
④丁寧形の「～ては」と「～ても」（TE1）

４．１　調査方法

調査は CSJ のコアデータを利用した。コアデータは調査対象とする複合格助詞が出現した 2,579 講演のうちの 169 講演であった。コアデータには文節の係り受けの情報が付与されている。各文節に文節 ID が付与されており，係り受けの情報は係り先の文節 ID を見ることで得られる[12]。そこで，この ID 番号の差を「係り先の位置」とし比較を行った。例えば，複合格助詞の次の文節が係り先の文節である場合「係り先の位置」は 1 である。

４．２　分析対象

表 2 の丁寧形 3,182 例のうちコアデータは 168 例であった。そのうち「～て」と「～ては・ても」の両方のデータがあった 5 形式（10 表現）162 例を分析対象とした（表 4）。普通形のコアデータは表 3 の 31,821 のうち 1,983 であった。そこから 250 をランダムに抽出し，412 例を対象に係り先を調べた[13]。

---

[12] CSJ（ver.4.0）の USB に格納されている XML ファイルの「Dep_BunsetsuUnitID」と「Dep_ModifieeBunsetsuUnitID」を用いた。

[13] 250 の中で各表現の抽出数は，調査対象とした 10 表現について，コア・非コアを合計した頻度（資

表 4　係り先の調査対象とした表現

FU0	TE0	FU1	TE1
として	としまして	としては/も	としましては/も
において	におきまして	においては/も	におきましては/も
について	につきまして	については/も	につきましては/も
に対して	に対しまして	に対しては/も	に対しましては/も
に関して	に関しまして	に関しては/も	に関しましては/も

４．３　結果と考察

分析対象の 412 例のうち係り先がない 42 例を除き，370 例について係り先の位置をまとめた（表 5，表 6，図 2）。図 2 から FU0 と TE0，FU1 と TE1 では，それぞれ TE0，TE1 の方が遠くに係る傾向があることが読み取れる。FU0 と TE0 についてウィルコクソンの順位和検定[14]を行ったところ有意差が見られた（$W = 2148, p<.05, r = .37$）。FU1 と TE1 についても，同様に検定を行ったところ有意差が見られた（$W = 1993, p<.05, r = .28$）。

したがって，複合格助詞において普通形と丁寧形を比較すると，丁寧形の方が普通形よりも遠くに係る傾向がある。つまり，丁寧形の複合格助詞において丁寧形が用いられる場合には，普通形よりも広い範囲に複合格助詞の意味が係る傾向があることを示していると考えられる。

表 5　係り先分析対象データ数

	FU0	TE0	FU1	TE1	計
係り先あり	166	47	66	91	370
係り先なし	13	5	5	19	42
計	179	52	71	110	412

表 6　係り先の位置（グループ別）

	Min.	1st Qu.	Median	Mean	3rd Qu.	Max.
FU0 (n=166)	1	1	3	4.404	6	29
TE0 (n=47)	1	4	6	7.787	11	26
FU1 (n=66)	1	2	4	7.561	10	35
TE1 (n=91)	1	5	9	10.35	14.5	33

料 1）を用いて各表現の割合を求め，決定した。

[14] 正規性の検定の結果，母集団が正規分布にしたがっていないと判断されたためウィルコクソンの順位和検定を用いた。統計解析には，R(ver.3.4.0)を用いた。

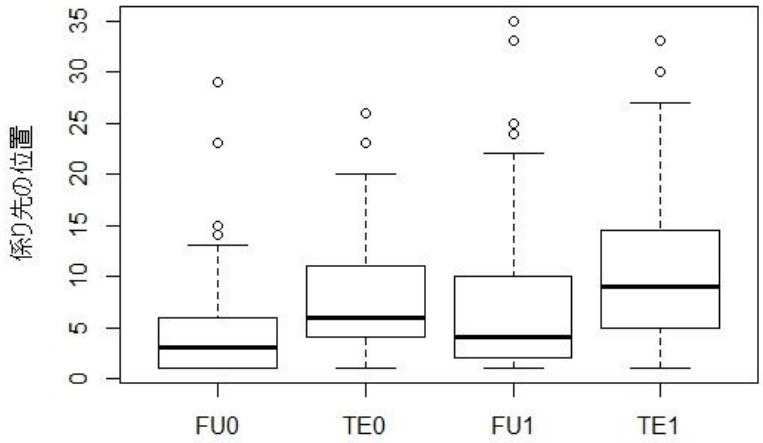

図 2　各グループにおける係り先の位置

調査した 5 形式の中で頻度の最も高い「～として」について各グループの用例を(4)から(7)に挙げる。用例は各グループでの係り先の位置が中央値の用例である。「/」は短単位の区切り，「#」は節単位の区切りである。□で複合格助詞を含む文節と係り先の文節を示す。また，係り先までの文節を下線で示す。

【FU0】 (4) #何/か/まー/嬉しい/と/言う/か/むっ/凄く/嬉しく/嬉しかっ/た/こと/と/し/て/それ/は/印象/に/残っ/て/い/ます#　（S01F0183_22990）

【TE0】 (5) #その/形式/上/の/使い分け/の/パターン/と/し/まし/て/今回/の/データー/で/は/少なく/とも/三/つ/の/パターン/が/ある/こと/が/分かり/まし/た#　（A06F0049_19080）

【FU1】 (6) #で/現実/的/な/策/と/し/て/は/あー/二/つ/ある/と/思い/ます#　（S06M0373_22670）

【TE1】 (7) #え/で/また/ここ/で/大事/な/こと/と/し/まし/て/は/え/統括/位置/と/いう/の/は/あくまで/も/位置/と/し/て/捉え/られる/もの/で/あっ/て/唯一/の/文段/で/は/ない/と/いう/こと/です#　（A02F0082_42340）

FU0 と TE0，FU1 と TE1 のいずれの比較においても丁寧形（TE0 と TE1）は普通形より係り先までの文節数が多い。このことは多様な内容を表すのに丁寧形がより用いられるということであると考える。

また，表 2，表 3 では，丁寧形は普通形よりも「～ては」の形をとる傾向があると述べた。本稿では十分に検討できなかったが，三枝（2013）や菅谷（2017）では，「～ては」の中には，主題や「全体のテーマを差し出す際」に用いられる場合があるとの指摘がある。「～て」と「～ては」の違いを分析することで丁寧形の機能をさらに検討できると考える。また，表 5 において TE1 は他のグループと比べて係り先のない例が多いことにも注目したい。CSJ のコアデータには「話題導入表現」などの情報も記載されており，これらの情報を含めて検討を行いたい。

５．まとめと今後の課題

本稿では，複合格助詞の丁寧形に注目し，CSJ の「講演」のデータを用いて普通形との比

較を通して分析を行い，複合格助詞の丁寧形の使用実態とその機能の一端を明らかにした。限られた数による考察ではあるが考察結果を以下の 3 点にまとめる。①複合格助詞の丁寧形は表現によって用いられる程度が異なる。頻度の高い複合辞格助詞に関しては，②丁寧形が用いられる場合，「～につきましては」のように助詞の「は」や「も」がついた形が普通形よりも用いられる傾向がある。③係り先について普通形よりも丁寧形の方がより遠くに係る傾向がある。

これらの結果から，丁寧形の機能は，一般的には丁寧さを加えるものとされているが，それだけではないことが示唆される。丁寧形が用いられる場合，普通形よりも広い範囲に複合格助詞の意味が係り，丁寧形はより多様な内容を表す際に用いられる傾向がある。

今後の課題として 2 点挙げる。1 点目は，本稿では複合格助詞の文節よりも後ろに続く語を用いて考察を行った。今後は各形式について，前接する語と複合格助詞の意味を関連させて考察を行いたい。2 点目は本稿では，話の内容に注目したため感動詞や言いよどみなど，話し言葉特有の要素を除外した。これらの要素も含めて考察することで丁寧形の機能をさらに明らかにできると考える。

謝　辞

本研究は科学研究費助成事業 16K02804「高等教育機関で学ぶ留学生に対する日本語教育シラバスの再構築」（研究代表者：太田陽子）の研究成果の一部です。

本研究全般にわたりご指導くださいました山崎誠先生（国立国語研究所）に御礼申し上げます。太田陽子先生（一橋大学）には，本研究に関して様々な観点からご助言をいただきましたことを感謝いたします。庵功雄先生（一橋大学）には本研究を進めるにあたり貴重なご助言をくださったこと，御礼申し上げます。また，白川博之先生（広島大学）には本稿に関して多くのコメントをいただきましたこと，御礼申し上げます。本稿作成の際に貴重なコメントをくださった中俣尚己先生（京都教育大学）に感謝いたします。

文　献

庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2001）『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク

国立国語研究所（2002）『現代語複合辞用例集』

国立国語研究所（2006）報告書『日本語話し言葉コーパスの構築法』
http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/csj/document.html（2017 年 6 月 16 日閲覧）

三枝令子（2013）「複合助詞につく『は』:『について』と『については』」『一橋大学留学生センター紀要』，11：3-5

菅谷有子・宮部真由美・遠藤直子・中村亜美・伊藤夏実・古市由美子・白鳥智美（2017）「『理工学系話し言葉コーパス』における複合辞の特徴－中級日本語教材をアカデミックなコミュニケーション能力につなげるために－」『言語と文化』28，文教大学大学院言語文化研究科付属言語文化研究所，1-25

服部匡（2013）「複合格助詞関連形式での丁寧形／普通形の対応関係－コーパスに基づいた研究－」藤田保幸（編）『形式語研究論集』和泉書院，19-34

三尾砂（1958）『話しことばの文法』法政大学出版局

調査資料

国立国語研究所『日本語話し言葉コーパス』第 4 刷（USB 版）および『中納言』による利用（2017 年 5 月～7 月検索）

資料 1　同一形式における丁寧形と普通形の頻度と割合（合計の高頻度順）

	丁寧形		普通形		合計	
として	1,399	11.17%	11,130	88.83%	12,529	100.00%
について	506	6.19%	7,667	93.81%	8,173	100.00%
によって	170	3.14%	5,245	96.86%	5,415	100.00%
に対して	295	7.43%	3,675	92.57%	3,970	100.00%
において	346	13.42%	2,232	86.58%	2,578	100.00%
に関して	466	19.93%	1,872	80.07%	2,338	100.00%
にとって	12	0.94%	1,264	99.06%	1,276	100.00%
に基づいて	29	9.09%	290	90.91%	319	100.00%
によると	117	52.70%	105	47.30%	222	100.00%
を通じて	7	4.38%	153	95.63%	160	100.00%
にかけて	5	3.25%	149	96.75%	154	100.00%
に応じて	9	6.12%	138	93.88%	147	100.00%
につれて	3	2.24%	131	97.76%	134	100.00%
にわたって	11	9.65%	103	90.35%	114	100.00%
にしたがって	5	5.05%	94	94.95%	99	100.00%
をもって	13	13.83%	81	86.17%	94	100.00%
に沿って	0	0.00%	92	100.00%	92	100.00%
に即して	0	0.00%	15	100.00%	15	100.00%
をめぐって	0	0.00%	11	100.00%	11	100.00%
とあって	4	57.14%	3	42.86%	7	100.00%
を抜きにして	0	0.00%	7	100.00%	7	100.00%
計	3,397	8.97%	34,457	91.03%	37,854	100.00%
参考）言って	273	9.4%	2,628	90.59%	2,901	100.0%